

科目名	専門理論			方法	講義
担当教員	小林仁、稲川光伸、大友秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目（スキー、スノーボード）の歴史や基礎用語を理解し、専門家としての意識を高める。 ・業界を支える発想力を身につける。 ・現在のウインタースポーツ産業の状況と考えられる課題・解決する力を身につける。 				
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語の習得 ・基本技術解説力の習得 ・マテリアル理解 ・障害のメカニズムと予防法の理解 				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スキー：・日本スキー教程・SBBセミナー資料 スノーボード：スノーボード教程				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スキー・スノーボードの歴史①				
2	スキー・スノーボードの歴史②				
3	マテリアル基礎構造①				
4	マテリアル基礎構造②				
5	マテリアル基礎構造③				
6	マテリアル基礎構造④				
7	マテリアル基礎構造⑤				
8	スキー・スノーボード基礎用語				
9	スキー・スノーボード専門知識・技術理論①				
10	スキー・スノーボード専門知識・技術理論②				
11	スキー・スノーボード専門知識・技術理論③				
12	スキー・スノーボード専門知識・技術理論④				
13	スキー・スノーボード専門知識・技術理論⑤				
14	冬の気象				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	県スキー連盟、地域協議会コーチ指導/妙高山スノーボードスクール経営、オールアルビレックスコーチ1年				

科目名	専門理論 II			方法	講義
担当教員	小林仁、滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	2年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スキー：指導者としての人格形成、指導方法の習得、スキー運動の特性と技術の理解 社会的コミュニケーション能力の向上 スノーボード：スノーボードが上達する上で必須となる知識を理解する				
学習目標 (到達目標)	スキー・スノーボード指導の基本を身につけ、安全かつ正確な技能習熟メソッドの習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・スキー指導と検定(最新版) その都度、必要と思われる資料を配布 ・日本スキー教程 ・SIA指導教程				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スキー：指導者の役割 スノーボード：目標チェックシート確認		・指導者の社会的意義 ・目標の確認		
2	スキー指導者の役割 スノーボード：マテリアルの構造①		・指導者に必要な資質		
3	スキー指導者の役割 スノーボード：マテリアルの構造②		・スキー・スノーボードの運動の力学的知識		
4	スキー指導者の役割 スノーボード：マテリアルの構造③		・ターン技術の組立		
5	スキー指導者の役割 スノーボード：マテリアルの構造④		・種目特性から見た指導		
6	スキー・スノーボードの運動特性と技術の構造①		・指導の基礎と原則		
7	スキー・スノーボード運動の特性と技術の構造②				
8	スキー・スノーボード運動の特性と技術の構造③				
9	スキー・スノーボード運動の特性と技術の構造④				
10	スキー：指導方法論① スノーボード：フリースタイル技術講習①		・種目特性から見た指導		
11	スキー：指導方法論② スノーボード：フリースタイル技術講習②		・種目特性から見た指導		
12	スキー：指導方法論③ スノーボード：フリースタイル技術講習③		・指導の基礎と原則		
13	スキー：指導方法論④ スノーボード：フリースタイル技術講習④		・指導の基礎と原則		
14	テスト		口頭によるインタビューテスト		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業中の関心・意欲・態度、実技技能、レポートなど思考判断を総合的に評価する。 A (秀80点以上) B (優70点以上) C (良60点以上) D (不可60点未満)					
実務経験教員の経歴	元SAJナショナルデモンストレーターとして指導経験、カナダスキーアルペンアシスタントコーチ、原スキー連盟、地域協議会コーチ指導/新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	技術研究 I			方法	講義
担当教員	小林仁・稲川光伸		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	前期/後期
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	14時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	<p>スキー：映像分析や、技術解説、討論を中心に、正しく技術を理解する目とコミュニケーション能力を身につける。選手として求められる、技術の展開を理解する。</p> <p>スノーボード：スノーボードに関する様々なクリエイションワークを模擬制作し、SNSに対応した映像編集の基本など、スノーボードビジネスや業界、ライダー活動への関心を高める</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>スキー：的確な技術解説の習得、指導力の向上、技術向上</p> <p>スノーボード：様々なクリエイションワークを模擬制作し、ビジネスや業界への関心を高める</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<p>・日本スキー教程　・動画</p>				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ねらいと導入の確認				
2	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
3	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
4	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
5	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
6	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
7	映像分析・映像編集			<ul style="list-style-type: none"> ・雪上でのトレーニングビデオの検証 ・映像編集・分析 	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
<p>考査60%（試験60点以下の場合追試対象）</p> <p>平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率）</p> <p>■成績評価4段階評価　100点満点で評価</p> <p>A（秀　80点以上）B（優　70点以上）</p> <p>C（良　60点以上）D（不可　60点未満）</p>					
実務経験教員の経歴		カナダスキーアルペンアシスタントコーチ、元SAJナショナルデモンストレーターとして指導経験/妙高山スノーボードスクール経営			

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	指導・検定対策			方法	講義
担当教員	小林仁・稲川光伸		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	14時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・インストラクター資格の必要な知識を身につける ・実技検定種目の理解 ・学科試験対策及び解説 				
学習目標 (到達目標)	インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<ul style="list-style-type: none"> ・スキー指導と検定 その都度、必要と思われる資料を配布 ・日本スキー教程 ・SAJ教育本部オフィシャルブック ・全日本スノーボード教程、他プリントなど 				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	指導者理論①		<ul style="list-style-type: none"> ・スキー・スノーボードの魅力と真価 ・スキー・スノーボードの歴史的背景 		
2	指導者理論②		<ul style="list-style-type: none"> ・求められる指導者像 ・望ましい指導者のあり方 		
3	指導方法論		<ul style="list-style-type: none"> ・指導の基礎と原則 ・指導の計画 ・指導における評価とその活用 		
4	技術の指導①		<ul style="list-style-type: none"> ・実地指導の内容 ・検定種目の習得と理解 		
5	技術の指導②		<ul style="list-style-type: none"> ・指導の展開及び技術系統の確認 		
6	指導者に必要な競技知識		<ul style="list-style-type: none"> ・競技規則の概要 ・競技大会組織 ・競技全種目についての共通規則 		
7	専門用語の理解 規約、規定の理解		<ul style="list-style-type: none"> ・会員登録規定・教育本部規定 ・内規及び関連諸規定 ・検定制度に関する規定 		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			なし		
実務経験教員の経歴	元SAJナショナルデモンストレーターとして指導経験/妙高山スノーボードスクール経営				

科目名	トレーニングⅠ・Ⅱ			方法	実技
担当教員	大橋一麻、大友秀樹、小林仁		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	112時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	基礎体力・持久力の向上。				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎体力向上・フィジカル強化①				
2	基礎体力向上・フィジカル強化②				
3	基礎体力向上・フィジカル強化③				
4	基礎体力向上・フィジカル強化④				
5	基礎体力向上・フィジカル強化⑤				
6	基礎体力向上・フィジカル強化⑥				
7	基礎体力向上・フィジカル強化⑦				
8	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑧				
9	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑨				
10	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑩				
11	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑪				
12	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑫				
13	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑬				
14	フィジカル強化・特異性トレーニングの実施⑭				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			怪我の防止・熱中症への対策。		
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年/元SAJナショナルデモンストレーターとして指導経験/オールアルビレックスコーチ1年				

科目名	コンディショニングⅠ			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識（身体やケガの知識）を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。</p> <p>パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。</p>				
学習目標 (到達目標)	スポーツ医学検定資格取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト2・3級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
2	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
4	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	怪我の予防		怪我を防ぐために		
6	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
8	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
9	トレーニング種類と組み合わせ方/ピリオダイゼーション		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
10	頭位を位置する胸部のスポーツにおける重要性について		実技あり、自身の滑走動画比較		
11	頸椎と呼吸法の関係性による柔構造と剛構造の違い		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
12	パフォーマンスを決める手と体幹の位置関係と発揮方法		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
13	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム①		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
14	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム②		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピクスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングⅡ			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	28
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スキー、スノーボードにおける外傷・障害について理解し、障害予防としてケア、コンディショニングの方法を身近な道具を使用し、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。前期はアライメントチェックを行い、自身に必要なケア、トレーニング、傾向を理解し、各関節におけるパフォーマンス向上に必要な基礎知識理解を目的とし、後期は障害に対してのセルフケアの方法理解を目的とする。				
学習目標 (到達目標)	自分の体を知り、コンディショニング方法として、道具を使用したセルフケアの方法と、体に対しての基礎知識の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版)・トレーニング指導者テキスト(理論編)・パーソナルフィットネストレーナーマニュアル3				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	アライメントチェック(静的、動的アライメント、柔軟性)	姿勢評価を行う(半袖、半ズボン)カメラ、メジャー、FMSキッド ※フィットネスルーム			
2	アライメント分析、評価、メニューの作成	姿勢評価、説明終了後、メニュー作成			
3	アライメント分析、評価、メニューの作成	メニュー作成			
4	股関節の重要性について(実技)	股関節の基礎動作・知識を理解したのち、股関節の動作による運動への影響を実技の中で体験する			
5	胸郭の重要性について(実技)	股関節の基礎動作・知識を理解したのち、股関節の動作による運動への影響を実技の中で体験する			
6	膝関節の動作と足首の関係性	膝、足関節の基礎動作・知識を理解したのち、関節動作による運動への影響を実技の中で体験する			
7	脊柱動作が運動に及ぼす影響について	脊柱の基礎動作・知識を理解したのち、関節動作による運動への影響を実技の中で体験する			
8	前期テスト	前期評価テスト			
9	背部痛に対する知識とケアの方法	筋筋膜性背部痛理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する			
10	背部痛に対する知識とケアの方法	筋筋膜性背部痛理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する			
11	腰痛に対する知識とケアの方法	筋筋膜性腰部痛やヘルニア、分離症の理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する			
12	腰痛に対する知識とケアの方法	筋筋膜性腰部痛やヘルニア、分離症の理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する			
13	膝痛に対する知識とケアの方法	膝蓋周囲炎、鵞足炎、ジャンパー膝、半月板損傷など膝の障害理解と対処法、ケアの方法を理解する			
14	後期テスト	後期テスト			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
考査60%(試験60点以下の場合追試対象) 平常点40%(学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	スポーツケア			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修/選択	単位数	—	時間数	14
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	パートナーケア、セルフケアの技術習得 アスリート、コーチ、インストラクターなど自身のコンディショニングから指導まで活かせるケアの基礎知識習得。スポーツマッサージやストレッチ、ストレッチポールを用いたコンディショニング方法を実技を中心に展開。				
学習目標 (到達目標)	ストレッチ、スポーツマッサージにおける知識・技術の習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	セルフストレッチ				
2	セルフストレッチ				
3	ストレッチポールを用いたケア				
4	スポーツマッサージ(手技基礎、効果性の理解)				
5	スポーツマッサージ(下半身)				
6	スポーツマッサージ(上半身)				
7	スポーツマッサージ(全身ケア・応用)				
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	スポーツ経営学Ⅰ			方法	講義
担当教員	福山泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要 流通の基礎理論、商品化計画、店舗運営を学ぶ</p> <p>目的 流通業界の知識取得と社会で幅広く活躍できる人材の育成。</p> <p>進め方 リテールマーケティングのテキストを使用しての知識の習得。</p>				
学習目標 (到達目標)	1.流通の基礎知識が理解できる。2.各流通段階における商品化計画、店舗運営が理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社キャリアック 販売士ハンドブック(基礎編)、その他配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	流通における小売業の基本、組織形態別小売業の基本		テキスト1に沿って知識を修得P7～P58		
2	店舗形態別小売業の基本的役割		テキスト1に沿って知識を修得P59～P100		
3	商業集積の基本、商品の基本、マーチャライジングの基本		テキスト1に沿って知識を修得P101～P113、テキスト2に沿って知識を修得P7～P38		
4	商品計画の基本、販売計画および仕入計画などの基本		テキスト2に沿って知識を修得P39～P70		
5	価格設定の基本、在庫管理の基本、計算		テキスト2に沿って知識を修得P71～P98、電卓を使つての計算		
6	販売管理の基本、ストアオペレーションの基本		テキスト2に沿って知識を修得P99～P113、テキスト3に沿って知識を修得P7～P48		
7	包装技術の基本、ディスプレイの基本、作業割当の基本		テキスト3に沿って知識を修得P49～P124、包装実習		
8	前期の振り返り 小売業の類型、マーチャライジング、ストアオペレーション		テキスト1～3の概要の振り返り		
9	小売業のマーケティングの基本、顧客満足経営の基本		テキスト4に沿って知識を修得P8～P29		
10	商圏の設定と出店の基本、リージョナルプロモーションの基本		テキスト4に沿って知識を修得P31～P66		
11	顧客志向型売場づくりの基本、販売員の役割の基本		テキスト4に沿って知識を修得P67～P96、テキスト5に沿って知識を修得P7～P26		
12	法令知識		テキスト5に沿って知識を修得P27～P66		
13	計数管理、計算		テキスト5に沿って知識を修得P67～P76、電卓を使用して計算		
14	店舗管理の基本		テキスト5に沿って知識を修得P81～P107		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考查60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			休日等、流通業界と実際に関わることが出来る小売業について観察をしてほしい。観察をしたことを授業内容の肉付けとして活用してもらいたい。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、10年リテールマーケティング検定対策(3級2級)講師としての実績あり。				

科目名	スポーツ経営学Ⅱ			方法		講義	
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有			
対象学科	スポーツビジネス学科	対象学年	2学年	開講時期	通年		
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28時間		
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施						
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要 スポーツ経営学基礎で習得した知識を更に深める</p> <p>目的 リテールマーケティング3級合格。</p> <p>進め方 リテールマーケティングのテキストと過去問題を使用。</p>						
学習目標 (到達目標)	リテールマーケティング検定3級取得						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社キャリアック 販売士ハンドブック(基礎編)、販売士ハンドブック(応用編)、その他配布資料						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	小売業の種類、マーチャンダイジング対策			テキスト1、2を使用して出題傾向と対策。模擬問題1(解答も)配布。			
2	ストアオペレーション、マーケティング対策			テキスト3、4を使用して出題傾向と対策。模擬問題2(解答も)配布。			
3	販売経営管理対策			テキスト5を使用して出題傾向と対策。模擬問題3(解答も)配布。			
4	検定対策1			模擬問題1・2・3の解説と関連する箇所のポイント説明。模擬問題4を配布。			
5	検定対策2			模擬問題4の解説と関連する箇所のポイント説明。模擬問題5を配布。			
6	検定対策3			模擬問題5の解説と関連する箇所のポイント説明。模擬問題6を配布。			
7	検定対策4			模擬問題6の解説と関連する箇所のポイント説明。最終要点確認。			
8	小売業の形態の知識を深める			テキスト1の復習によって知識を確実にし、内容を深める。			
9	店舗運営における実践的なマーチャンダイジングの構想と構築			テキスト2の復習によって知識を確実にする。一つの小売業態を選択し、マーチャンダイジングを構築			
10	店舗運営における実践的なストアオペレーションの構想と構築			テキスト3の復習によって知識を確実にする。選択した小売業態についてストアオペレーションを構築			
11	店舗運営における実践的なマーケティングの構想			テキスト4の復習によって知識を確実にする。選択した小売業態についてマーケティングの構想。			
12	店舗運営における実践的なマーケティングの構築			選択した小売業態についてのマーケティングの構想の修正、構築する			
13	店舗運営における実践的な販売経営管理の再確認			テキスト5の復習によって知識を確実にする。選択した小売業態についての販売経営の再確認。			
14	店舗運営における実践的な販売経営管理の構築と全体像の完成			選択した小売業態についてのマーケティングとストアオペレーションの構想の修正と完成を目指す。			
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)				テキストの内容を把握していること。			
実務経験教員の経歴				18年販売促進コーディネーターの実績、10年リテールマーケティング検定対策(3級2級)講師としての実績あり。			

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	イベントプランニング			方法	演習
担当教員	竹内 雄介		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科・スポーツビジネス学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	40時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	実際のイベント開催に向けて、企画の立案、イベント論、宣伝材料の作成（動画やチラシ）、集客、SNS運用を実践します。イベント開催後の報告や仕事につなげるところまでを学習します。				
学習目標（到達目標）	イベントの企画運営を通して、将来使える個人のスキルアップ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	独自作成資料・Adobeアプリケーション・Officeアプリケーション				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、イベント開催までの流れ		イベントや企画をより良いものにするために必要な知識やツールを学びます。イベント開催により学べること、得られることを学びます。		
2	イベント企画		イベントの企画をまとめます。イベント名、概要、定員、参加費、ゲスト、役割、予算、協賛後援、持ち物などを決めます。		
3	イベント企画、宣伝、コミュニケーション		実際のイベント開催に向けて準備を進め、その中で、SNSを活用した宣伝方法やコミュニケーションの拡散方法を学びます。		
4	Adobeアプリ、仕事でのパソコンの使い方、デザイン制作		Adobeアプリの種類と使い分け、仕事でのパソコンの使い方とデータの種類、デザインを作成するときを考えること、過程、作り方を学びます。		
5	illustratorを使った基本操作		illustratorを使用して、イベントロゴやフライヤー、ノベルティを作成します。		
6	イベント準備①		イベントの告知やノベルティの発注、協賛後援のお願いを行います。		
7	撮影		スマホまたは一眼カメラを使った撮影方法と設定を学び、実際に撮影します。		
8	Photoshop、lightroom、Premiereを使った基本操作		前回授業で撮影した写真や動画をPhotoshop、lightroom、Premiereで加工します。		
9	イベント準備②		イベントのリハーサルを行い、不足部分があれば改善します。		
10	反省と次の展開		イベントの反省と次に活かすための報告作業を行います。時間次第で、個人事業主、副業、トリプルワークの働き方、移住と働き方の選択肢について学びます。		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	LRFworksにて企画運営				

科目名	チューンナップII			方法	実技
担当教員	棟田 達典		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科スキーコース	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	4時間
授業形態	対面授業のみ実施				
授業概要、目的、授業の進め方	自身のマテリアルを調整する能力を身につけ、競技力向上と専門知識の向上を目指す。				
学習目標 (到達目標)	高度なチューンナップ技術を身につけ、滑走技術に合わせたマテリアルの調整ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スキー・スノーボードのチューンナップ実技		・サンディングマシン実技		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業中の関心・意欲・態度、実技技能、レポートなど思考判断を総合的に評価する。 A (秀80点以上) B (優70点以上) C (良60点以上) D (不可60点未満)					
実務経験教員の経歴	チューンナップ店経営				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上実習Ⅰ・Ⅱ			方法	実技
担当教員	小林仁、稲川光伸、滝沢光、大友秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1・2年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	511時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スキー・スノーボードを通じ人間力・技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	大会入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	春の雪上トレーニング①		妙高エリアにて基礎技術練習		
2	春の雪上トレーニング②		妙高エリアにて基礎技術練習 テレマーク、板試乗		
3	春の雪上トレーニング③		妙高エリアにて基礎技術練習		
4	春の雪上トレーニング④		妙高エリアにて基礎技術練習		
5	雪上トレーニング⑤		基礎基本技術の構築、マテリアル調整とチェック		
6	雪上トレーニング⑥		基礎滑走技術の向上		
7	雪上トレーニング⑦		実践的な応用技術の習得 基礎ゲートトレーニング		
8	雪上トレーニング⑧		実践的な応用技術の習得 実戦的なゲートトレーニング、パーク練習		
9	雪上トレーニング⑨		実践的な応用技術の習得 実戦的なゲートトレーニング、パーク練習		
10	雪上トレーニング⑩		実践的な応用技術の習得 実戦的なゲートトレーニング、パーク練習		
11	雪上トレーニング⑪		各種予選参戦及び調整		
12	雪上トレーニング⑫		各種ポイントレース参戦、応用技術トレーニングの実施 パーク練習、大会に向けた調整		
13	雪上トレーニング⑬		各種ポイントレース、大会参戦、応用技術トレーニングの実施 パーク練習、大会に向けた調整		
14	雪上トレーニング⑭		各種ポイントレース、大会参戦、応用技術トレーニングの実施 パーク練習、大会に向けた調整		
15	雪上トレーニング⑮		各種ポイントレース、大会参戦、応用技術トレーニングの実施 パーク練習、大会に向けた調整		
16	雪上トレーニング⑯		全日本選手権への調整、資格・検定		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	県スキー連盟、地域協議会コーチ指導/妙高山スノーボードスクール経営、プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年、オールアルビレックスコーチ1年				

